

初めて参加しました！ 「日ようび子ども大学」

「モシモシしませんかー」の優しい声に、嬉しそうにうなずき、ちょこんと腰掛ける子どもたち。聴診器を胸に当て、心臓の鼓動が聞こえて思わずニコリのお姉ちゃん、すぐに弟の胸に聴診器を当てて、凜々しい子どもドクターに。6月24日(日)、大学コンソーシアム岡山が主催する「日ようび子ども大学」が、岡山県生涯学習センターで開催され、川崎医科大学として初めて参加した。『ぬいぐるみびょういん』グループの学生を中心とした7名と寺田喜平教授、そして、本学代表を務める大槻剛巳教授が、医学・医療体験コー

ナーを設けた。訪れた親子連れは約340名と大好評、親子5人で参加した職員の家族も大喜び。打鍵器でひざを打ち、急にハネ上がる足にびっくり、食道から大腸までの手作りキットを連ねる「人体パズル」ゲームで床を這い回り、針なし注射器を巧みに扱う目は真剣だった。『ワクチンマン』が身体を守る紙芝居を観て、「注射はこわくないですね。わかったひとー？」と学生、「はあーい」とみんなが手を挙げた。寺田教授の小児科相談コーナーからは、満足した表情で退席する母親



の姿が見られ、医療関係に関心を持つ子どもたちが増えることを確信しながら、達成感とともに幕を閉じた。

(事務部庶務課)

